

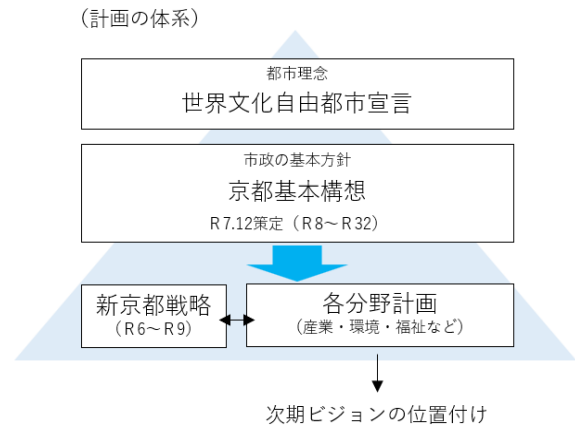
京都基本構想・新京都戦略について

1 京都基本構想《別紙参照》

(1) 概要

- ・ 市政の基本方針を示す「京都市基本構想(期間:25年(平成13(2001)年～令和7(2025)年))」と基本構想を具体化するため、本市の主要な政策を示す「京都市基本計画」を統合し、令和7年12月に「京都基本構想(期間:25年(令和8(2026)年～令和32(2050)年))」を策定。

⇒「大学のまち京都・学生のまち京都推進ビジョン(仮称)」は、「京都基本構想」を実現するための分野別計画の一つに位置づけられる。



《京都基本構想：体系》

章	概 略
序文	
第一章 京都基本構想策定の背景	世界文化自由都市宣言が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都基本構想を策定するに至った背景を示す。
第二章 京都のかたち	序文が示す3つの価値が育まれてきた歴史や風土と、その価値がさまざまな人によっていまのわたしたちの暮らしの中に受け継がれてきていることを示す。
第三章 世界・日本・京都市の いまと未来への課題	世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示す。
第四章 わたしたち京都市民が めざすまち	序文が示す価値を未来に引き継いでいくため、3つの価値に紐づける形で、9つのめざすまちの将来像を描いている。
第五章 京都をいきるわたしたち のこれから	京都市民だけでなく、京都とさまざまな関わり方をする人も「わたしたち京都市民」と捉え、力を合わせて京都のまちづくりを進めていくことやその際の行政の役割などを示す。
未来への問いかけ	京都基本構想をきっかけに、みんなで未来の京都を考え、ともに語り合い、行動していきたいという想いを込めている。

(2) 大学政策に関連する主な内容

頁	章・節	記載内容（抜粋）
7	第二章 京都のかたち 第三節 節度と矜持に基づくひらかれたまち柄	（前略）現代においても、数多くの大学や研究機関が集積する世界有数の学術都市であり、（後略）
9	第四節 世界有数の学藝の府	大学のまち・学生のまちと称され、（中略）学術と文化・藝術の双方において世界有数の都市、いわば学藝の府である。
10	第三章 世界・日本・京都市のいまと未来への課題 第一節 人口動態の変化とその影響	京都市の人口は（中略）特に就職や結婚・育児などのライフステージの変化に伴う若年層の流出が顕著となっている。（中略）国内有数の大学街である京都市においては、学生数減少の多大な影響も予見されるところであり、まち全体としてのあり方も大きな変容を迫られていくだろう。
11	第二節 日本経済の動向と京都市の産業	（前略）労働者・後継者の不足が課題となっている。（中略）地域に根差しながら未来を担っていく人材を確保・育成していく必要性が年々増している。
15	第四章 わたしたち京都市民がめざすまち 第一節 歴史と文化を介して人間性を回復できるまち (1) 本物（ほんまもん）を追究・創造し続ける	（前略）このまちの学藝をさまざまに担う京都学藝衆と学域・地域のつながりを深めることで（中略）教育の機会を創出するとともに、（中略）学域・地域を持続させていくための土壌としていく。
16	(2) 世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける	わたしたち京都市民は、ひらかれたまち柄のもとで世界との文化交流を重ねながら、（中略）また、世界中の国や地域から突き抜けた人材が集まるように、工夫と努力を重ねていく。
16	(3) 「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる	（前略）市外ひいては国外からも人が集い、夢中が溢れるまちをつくっていく。特に、わたしたちの京都市の未来を担う子どもや若者が、（中略）学問から藝術、（中略）さまざまな物事を個性に応じて追求できるまちであり続ける。加えて、大学や博物館（中略）までもが広く集積することを活かして、まち全体をキャンパスと捉えてこれらを有機的につなぎ合わせながら、年齢、性別、国籍、文化圏などを超えてともに学び合える、夢中と感動に溢れた人生とまちを織り成していく。

18	第三節 自他の生とともに肯定し尊重し合えるまち (1) 多層的でゆるやかなつながりが続く	加えて、市外から通勤・通学する人々から観光客に至るまで、京都市とさまざまな関わり方をしている人たちもまた、わたしたちの京都市の現在を担ってくれていることに感謝と敬意を抱きながら、(中略) 誰もが安心と愛着とを抱ける心地よいまちをつくっていく。
21	第五章 京都を生きるわたしたちのこれから	このまちは、市内に居住する京都市民によってのみつくられてきたわけではない。わたしたちの京都市においては、働き、学び、憩うために市外から日々足を運ぶ人々、進学・就職・育児等による転出後も深い愛着を抱いている人々(中略)など、さまざまな関わり方を見出すことができる。(中略) これらの人々が銘々において自在に京都市にかかわることができるための設計や、多層的で多彩な帰属意識の醸成と可視化を可能とする取組が求められる。わたしたちの京都市と何らかのかかわりを持った人々が物理的・時間的な隔たりを超えて関わり続けていける仕組みをデジタル技術も活用しながら構築していくとともに、これらの人々との対話を新たに織り成し、深めていく必要がある。

2 新京都戦略《別紙参照》

(1) 概要

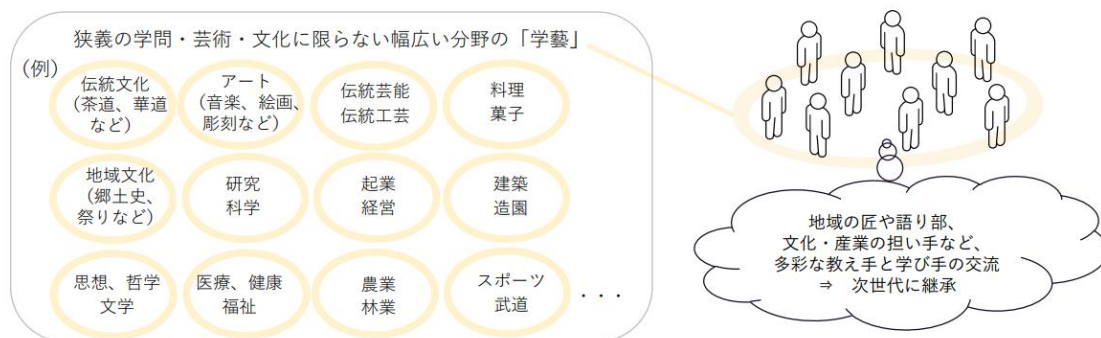
- ・ 京都基本構想の理念を反映・具体化する分野横断のアクションプラン。令和6(2024)年度から令和9(2027)年度までに取り組む京都市の政策を取りまとめた中期計画として策定(令和7(2025)年3月策定、令和8(2026)年3月改定)。
- ・ 「すべての人に『居場所』と『出番』がある『突き抜ける世界都市 京都』」の実現に向けた先導的な取組をリーディングプロジェクトとして位置付けている。

(2) 大学政策に関連する主な内容

VI「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ「京都学藝衆構想」(P. 17-20)

- 「京都学藝衆」とは、このひらかれたまち柄のもと、多様な技芸や技能、知恵、経験が磁力となり人々が惹きつけられ、学び、学び合うことで、京都の価値・魅力を次の世代につなげていく方々の連なり(=広く市民が参加し、学び合い教え合う、幅広い分野の「テーマコミュニティ」)

- 文化・産業・スポーツなど幅広い分野の担い手、地域の匠、語り部をはじめ、地域の方々が育んできた多彩な価値・魅力に幅広い世代が触れ、共に学び、交流する「夢中になれる学び合い」の機会を創出。



Ⅶ リーディングプロジェクト

1 ひらく (P. 22)

①世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト

- 都市の多様性・包摂性を高め、日本中・世界中から、アーティストやクリエイター、さらには職人、料理人など京都の価値に共感する多彩なクリエイティブ人材を呼び込む。公民の住宅ストック等を活用して、京都で暮らし、創造的に活躍できる環境を整え、作品の制作・発表ができる機会を創出。
- クリエイティブ人材を自律的・持続的に受け入れるための仕組みを構築（ネットワークの形成等）するとともに、京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりを活かした交流を促進し、新たな文化や産業の創出、地域課題の解決等につなげる。
- 国際卓越研究大学の認定候補となった京都大学をはじめ、多様な大学や研究機関が集積する「世界に開かれた“大学のまち京都”」の特性を活かし、サバティカル休暇を取得する海外の研究者や留学生等やその家族が、京都に来て、地域に調和しながら安心して快適に暮らし、活躍できる環境を整えるため、公民の住宅ストック等を活用した住まいの支援、相談窓口の設置、日本語や日本文化を学べる拠点の充実。
- 市営住宅について、セーフティネットとしての機能を維持しつつ、空き住戸を積極的に有効活用。大学等との連携により、クリエイティブ人材や学生の居住、一定期間滞在できる環境を整えるとともに、活動の場としても提供。
- インターナショナルスクールの開設等の支援など受入環境を整備。多文化共生社会において、多様な文化的背景を持つ人々との相互理解・相互尊重を促進。分野を横断する国際政策を戦略的に推進するための体制を構築。

2 きわめる (P. 30)

⑨ まち中に「学藝」があふれるプロジェクト

- 学問、学びだけでなく、芸術・技芸があふれる唯一のまちを目指し、歴史、

文化、大学の知が集積する京都のまちの強みを活かし、京都ならではの市立・府立高校の連携、高大連携等により、探究型学習、STEAM教育、英語教育、演劇教育を実践、アントレプレナーシップ（起業家精神）を醸成。京都のまちを舞台に、次代を担う子どもたちの「生きる力」と「創造的な発想力」を養い、グローバルに活躍できる人材を育成。さらには、突き抜けた人材が学校教育で幅広く活躍できる場を創出するとともに、京都のまちづくりにも寄与する市立高校の魅力を向上。

- 京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりや、生活の中に伝統と文化が息づくまちの強みを活かし、感性豊かな子どもの頃から、能・狂言などの伝統芸能、映画文化、食文化、豊かな自然、ものづくりなど京都ならではの多様な体験を得ることができる環境を整備。京都の学藝を支え、継承・創造していく次世代の「担い手・支え手」の資質を育成。
- 大学・学生が京都のまち全体をキャンパスに学びを深め、その力を地域活性化や社会課題解決に。学生の出会いと交流を通じた京都への愛着の醸成、府と連携した奨学金返済支援の充実等により、市内就職・定住の促進、京都との関係の構築により、将来的な京都への定着を促進。

政策集（P. 9-10）

3 京都の伝統・知恵・イノベーションの力により「都市の活力と成長を支える産業が育つまち」

(5) 大学のまち・京都の強みを活かした都市の活力の創出

- ① 相談窓口の設置や日本語・日本文化を学ぶことができる拠点の充実【R8】など、海外の研究者や留学生等が、京都に来て、安心・快適に暮らし、活動できる環境づくり
- ② まち全体をキャンパスに国内外の大学・学生と地域、学校、企業等が連携した地域活性化や社会課題解決に向けた取組の推進
- ③ 多様な主体と連携した学生への支援などによる、学生の京都への愛着醸成と市内定住の促進